

友好交流から学んだこと

網走市立第三中学校 一年 荒上 桃子(あらがみ ももこ)



私は厚木や糸満の人達と会う時、最初は緊張して、色々と遠慮していましたが一緒に過ごすうちに緊張もとけ、仲良くなっていきました。厚木や糸満の人との会話の中で、自分達の「まち」について話していると、全く違う所や似ている所を見つけました。

全く違う所は、糸満の海は泳げる海ですが、網走の海は泳げないし、厚木には海がないそうです。似ている所は、糸満も厚木、網走も自然豊かな「まち」だという事です。糸満にはきれいな海があり、厚木は紅葉が有名、そして網走にはオホーツク海があります。

皆と一緒に過ごすのはとても楽しくて、別れるときにはとても名残惜しかったです。

美々ビーチに行った時には、サバニ体験をしました。サバニとは10人ぐらいが乗れる木製の船の事です。サバニで大事な事は、全員のこぐリズムです。ばらばらにこいでしまうとどれだけ頑張っても全然進みません。その大事なリズムを決めるのは先頭のリーダーで、後ろの人達はそれに合わせてこいでいきます。つまり、チームワークがとても重要なのです。

糸満市長表敬の時、市長への質問で、糸満の良い所について聞きました。市長は「きれいな海やハーレー、綱引きなどの地域の伝統行事が良い所だ。」と言っていました。ハーレーとは、サバニを使ったレースの事です。網走とは違う、糸満にしかない文化だと思いました。

平和記念公園の中には、平和の礎があり、全国各地の沖縄戦でなくなった人々の名前が刻まれています。その数は24万人以上で、毎年新たに名前が見つかるそうです。

見つかるとは、戦争で戸籍などが焼けて無くなってしまい、確認が取れなかった人の中に、沖縄戦の関係者が見つかるということです。

そして、名が刻まれている人で男性は沖縄以外の出身者が多いですが、沖縄出身の人は女性の名前も多く刻まれているそうです。理由は、沖縄自体が戦場になり、兵士も市民も関係なく殺されてしまったから女性も多いのだと知りました。

ひめゆり学徒資料館で最も印象に残ったのは、少し年上の高校生ぐらいの亡くなった人達の写真です。ひめゆり学徒隊というのは、12～17歳ぐらいの女性の生徒と先生で作られ、負傷兵の看護をしていた人達のことです。

壁一面に写真があり、200枚以上ありました。白黒写真ですが、その表情は、真剣な顔や笑った顔でこちらを見ていて、服装はセーラー服や和服でした。髪形もおかっぱや、おさげの髪をしていました。

ですが所々写真がなくて、スペースだけが空いている所があって、それは写真が残っていない人達の方だそうです。私は、同じぐらいの年齢の人がこんなにも亡くなったのかと胸が苦しくなりました。

「真の平和とは尊厳を持って生きられる社会だ」これは、平和講話で語り部の久保田さんが言っていた言葉で私には、とても印象に残った言葉です。

私は、「尊厳を持って生きられる社会」とはどういう事だろうと考えました。そこで、自分を認め、相手を尊重して生きられる社会だと思いました。また、自分を認めるとは、自分を受け入れることだと考えました。

そこで、自分を受け入れるとは、自分が望んだ姿や、そうじゃない姿になってもその結果を受け入れることだと考えました。ですが、これだと平和や戦争が起きたり、それによって死ぬことになってもそれを受

け入れることになってしまうと思い、それは、違うと思いました。だから、もう一度、「尊厳を持って生きられる社会」とはどういうことなのかと考えました。そして、誰もがその人だけの良さを持ち、相手を大切にしていける社会だと考えました。

そこで私は、笑い合い、人と会話ができるこの毎日が、とても平和なんだと実感しました。この平和をこれからも守り続けていきたいです。